

# 憲法違反の「安保法制」 反対する7・12和歌山大集会&パレード

和歌山城西の丸広場において7月12日、憲法違反「安保法制」に反対する7・12和歌山大集会&パレードが和歌山弁護士会主催でひらかれ、平和フォーラムをはじめ9条の会やさまざまな市民団体など、2500人も参加者が結集した。



岸本周平・衆議院議員もかけつけた

はじめに、和歌山弁護士会の木村義人・会長から「昨年の政府の閣議決定をふまえ、安保法案が国会に提案されたが、憲法9条の恒久平和に違反している。この17日には委員会が強行採決しようとしており、戦争は最大の人権侵害でありとても容認できるものではない。暑いなかご苦労さまですが、本日はよろしくお願ひします」と主催者あいさつがあった。つづいて、民主党の岸本周平・衆議院議員から「憲法は権力者をしるもので、憲法は国民を守るもの。70年前を思い出して下さい。政府に反抗しただけで逮捕され、拷問されたらどうなるか。36条を勝手に公務員が解釈を変えてどうするのか。立憲主義国家でこのような乱暴なことをしたらいけない。憲法が表現の自由を守り、報道の自由を守る。一人ひとりの自由を守るために憲法はある。委員会での強行採決を許してはならない」と強く訴えた。つづいて、共産党の宮本岳志・衆議院議員からも「野党各党としっかり協力してなんとしても廃案にもつていきたい」と連帯のアピールを訴えた。



集団的自衛権に反対!



2500人もの人が結集した

## (1)

いま「全国水平社創立宣言と関係資料」のユネスコ世界記憶遺産登録にむけての準備がされている。「全国に散在する我が特殊部落民よ団結せよ」からはじまり「人の世に熱あれ 人間に光あれ」と結ばれている。92年前に京都・岡崎公会堂で全国の被差別部落民が会場に集まり、この水平社宣言が高らかに読み上げられた。日本の歴史上極めて重要で、意義のある日本の「人権宣言」である。以来、近隣諸国や世界中で多大な影響を与えてきた。この宣言をうけて「全国水平社」が結成された。いわば水平運動・部落解放運動のはじめで、この運動は燎原の火の如く全国に広まっていった。

もそうである。多くの先人たちが水平社の旗「荊冠旗」の下に集まり、この運動を発展させてきた。しかしながら、差別はまだ存在している。インターネットを悪用した差別事件やY住宅販売会社差別事件にみられる部落の土地を忌

## (2)

本年1月に「水平社宣言」の創始者である西光万吉の終焉の地である紀の川市で「西光万吉顕彰会」が発足した。西光さんとお連れ合いの清原美寿子さんが住んでいた住宅を保存し、西光さんが残した遺品(書

# 主張 平和憲法を 遵守しよう!

避した土地差別、市町村の窓口「〇〇は同和地区ですか」と問合せてくる差別事件が多発している。また、公然と差別煽動をおこなう「ヘイトスピーチ」の問題も深刻化している。物・絵画等)を収集・保存していく運動である。いま着々と準備がすすめられているが、この西光さんの住宅に「不戦和栄」の碑がひっそりとたたずんでいる。人類の平和共存を求める「和栄政策」の思想を掲げ、戦後一貫して平和運動にその

生涯を捧げた西光さんになんぞで建立されたものだ。いま、平和が脅かされている。安部内閣は「憲法」を勝手に解釈し「集団的自衛権」行使の閣議決定をおこない、まさに「戦争のできる国」をめざし、今国会で「安保法制」を数の力で押しとおそうとしている。今年には被爆・敗戦70周年の年にあたる。あの忌まわしい第2次世界大戦の教訓から憲法9条「戦争の放棄」が生まれた。



埋め尽くされた砂の丸広場

今の情勢をみたら、西光さんはどう思うだろうか。二度と戦争を繰り返してはいけない。すべての人の人権を守っていくことが、平和を守っていくことであり「水平社宣言」の崇高な理念であることを再確認し、部落解放運動を押しすすめていかなければならない。

## 狭山事件を 考えよう



「万人は一人の為に、一人は万人の為に」  
狭山の闘いは部落解放運動の原点。石川一雄君の生い立ち、全国の兄弟姉妹の生い立ちと同じであった。家が貧しく学校に行けない、学校を卒業していないから安定した仕事につけない。  
私も昭和39年に中学校を卒業した。その後、多くの仕事を転々として故郷に戻った。狭山の闘いは自分との闘い。人の世の冷たさ、どんなに冷たいか、世の中は予断と偏見と権力で見極め自分の身を守る。字を学び、自己主張のできる人間に成長しなければならぬ。  
狭山の闘いから「識字学級」が生まれた。中学、高校の無償化も狭山の闘いから生まれた。教育の大きな前進をなした。  
石川一雄君は部落に生まれたというだけで殺人犯にしたあげられた。我々の多くの全国の兄弟姉妹は、その姿を見て、いつまで第2の石川一雄が生まれても不思議でなかった。「石川命、我が命」と私たちが自分の生い立ちのなかから、なにが差別であるか、どのようなことが部落差別なのか。なぜ多くの仲間が自ら生命を絶つたのか。  
私は1975年(S50年)に26歳で湯浅町議になり、政治の世界に入った。1987年(S62年)38歳で県議となり36年間政治に関わってきた。だが、どの原点も狭山があった。多くの人と人との出会いも、決して、予断と偏見で人を見ることなく、そして人の話を素直に聞く、自分の主張、相手の立場を理解して事を進める。我々は世の中の予断と偏見で差別をされてきた。  
それゆえに多くの人がひとりの出会いを大切に、人間としての原点を真正面から見つめ、狭山、石川一雄君の生い立ちを見つめ、狭山完全勝利に向かって闘い続けたい。  
(松本貞次)

## 文化の窓

### 第2版 知っていますか 沖縄 一問一答

金城実著、解放出版社、2010年12月15日発行  
ISBN978-4-7592-8245-0

「辺野古」という言葉を聞かない日がないほど、毎日ニュースで放送される。沖縄の歴史的背景を知っていると、今、なにが起こっているかがわかる。文化、歴史など沖縄を著者の半生をたどりながら記された一冊。今、概語句の一冊。



◆お問い合わせは、県連・教宣部まで  
TEL 073-473-2301